

## 調査概要

## (1)本調査の目的

本調査は、大阪府教育委員会が、府内における生徒の学力を把握・分析することにより、大阪の生徒の課題の改善に向けた教育施策及び教育の成果と課題を検証し、その改善を図るために実施しているものです。

また、市町村教育委員会や学校が、府内全体の状況との関係において、生徒の課題改善に向けた教育施策及び教育の成果と課題を検証し、その改善を図るとともに、そのような取組を通じて、学力向上のためのPDCAサイクルを確立するためのものでもあります。

## (2)調査の対象学年・学校・生徒数

(9月3日に調査を実施した学校・生徒数は以下のとおり)  
中学校第3学年 門真市:6校 628人

## (3)調査内容

(調査を実施した教科は以下のとおり)  
中学校第3学年 国語・社会・数学・理科・英語

(4)大阪府公立高等学校入学者選抜への活用について  
中学生チャレンジテストは、大阪府高校入試の調査書(内申書)の資料として活用されます。

## 調査結果の概要

## 【全体】

- ・国語、社会、数学、理科、英語の各教科において府平均を下回っており、府とは7.0～8.9の得点差が見られます。
- ・平均点における対府比較では、門真市は府100に対し約83.4～89.3となっています。

## 【異集団】

- ・令和5年度と同調査と比較すると、英語の教科において府平均との差が縮まり、理科の教科において府平均との差は変化がありません。国語・社会・数学の教科において府平均との差が広がりました。

## 【同一集団】

- ・1年生時の同調査(令和5年1月実施)と比較すると、国語の教科において府平均との差が縮まりました。数学・英語において府平均との差が広がりました。
- ・2年生時の同調査(令和6年1月実施)と比較すると、理科の教科において府平均との差が縮まりました。国語・社会・数学・英語の教科において府平均との差が広がりました。

○本市では、門真市版授業づくりベーシック(学習指導要領に基づいた授業改善)を推進しています。その成果を大阪府 平均正答率7割以上の問題において見とっており、本市においても同じく正答率7割以上をめざすということを一つの指標として取り組んでおります。  
その観点において、今回の結果は以下の通りでした。

国語【全31問中】大阪府(12問)門真市(9問) 社会【全37問中】大阪府(3問)門真市(1問) 数学【全33問中】大阪府(6問) 門真市(2問)  
理科C【全30問中】大阪府(5問)門真市(1問) 英語【全35問中】大阪府(10問)門真市(4問)

## 学年・教科別得点

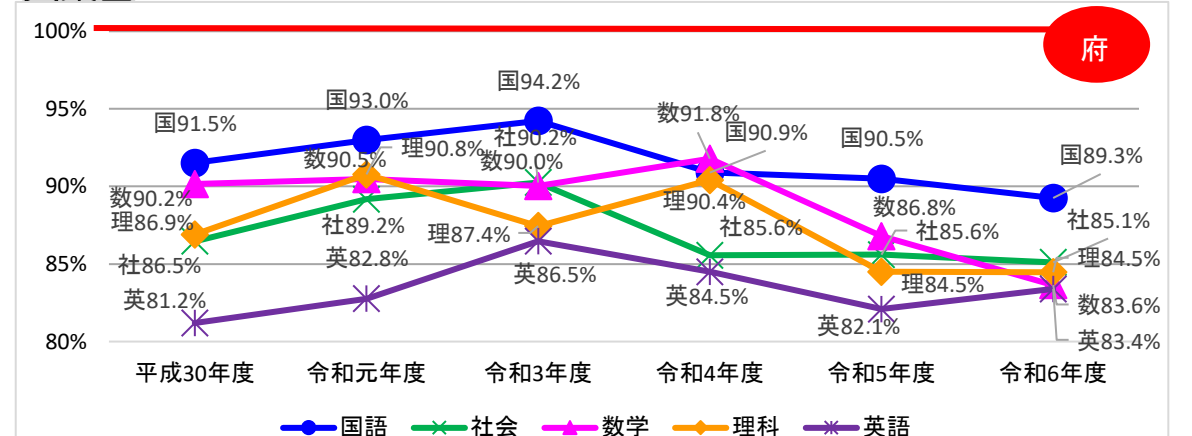
## 平均得点

|    | 令和5年度(3年生) |      | 令和6年度(3年生) |      |
|----|------------|------|------------|------|
|    | 門真市        | 大阪府  | 門真市        | 大阪府  |
| 国語 | 56.2       | 62.1 | 58.2       | 65.2 |
| 社会 | 46.8       | 54.7 | 42.9       | 50.4 |
| 数学 | 45.3       | 52.2 | 41.1       | 49.1 |
| 理科 | 40.2       | 47.6 | 44.2       | 52.3 |
| 英語 | 44.5       | 54.2 | 44.7       | 53.6 |

## 平均点における対府比較及び経年比較

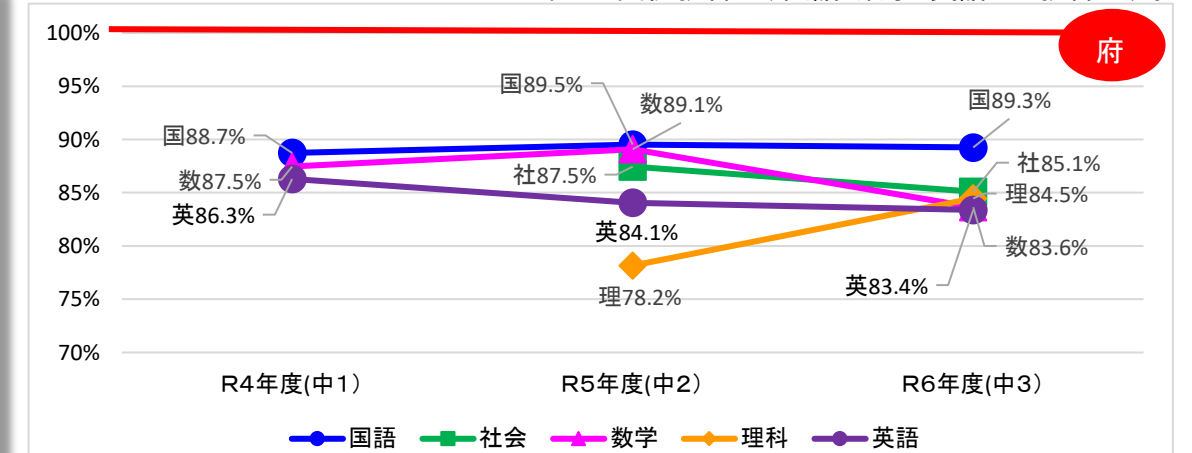
## 異集団

※令和2年度は実施せず



## 同一集団

※中1の受検教科は、国語・数学・英語の3教科です。



## 今後の取組みについて

## 【成果と課題について】

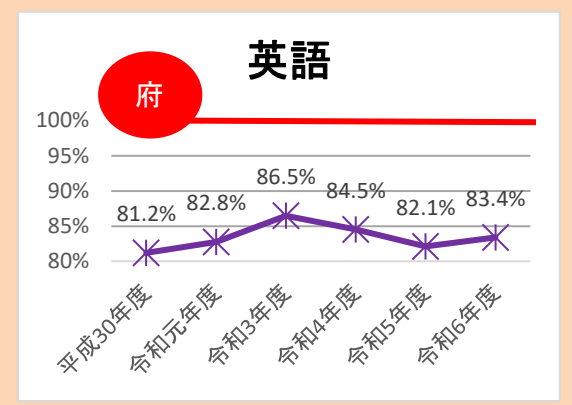
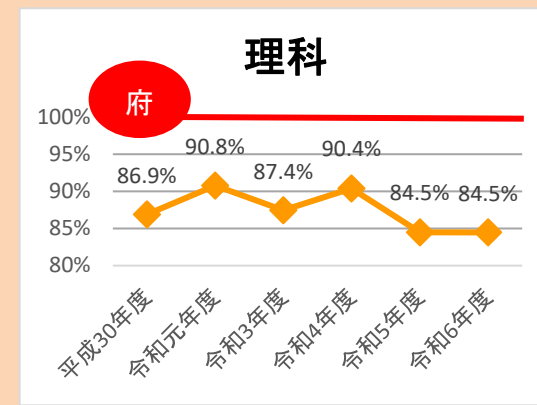
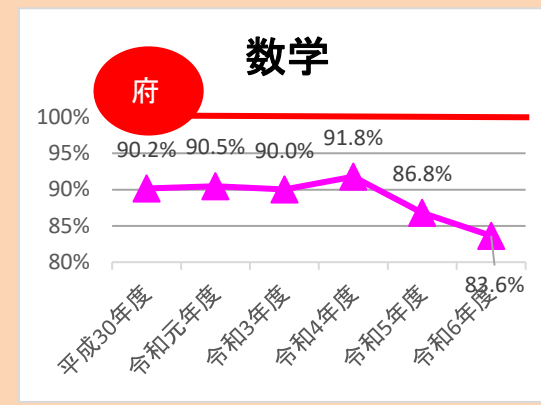
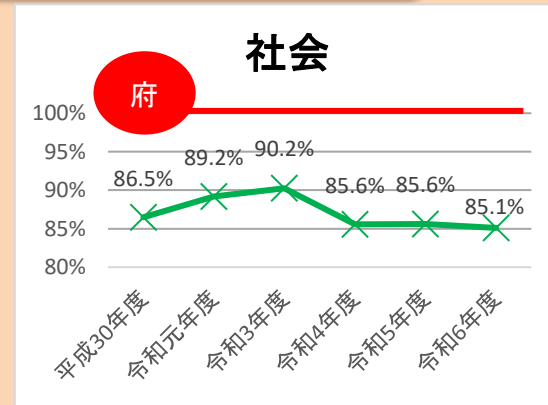
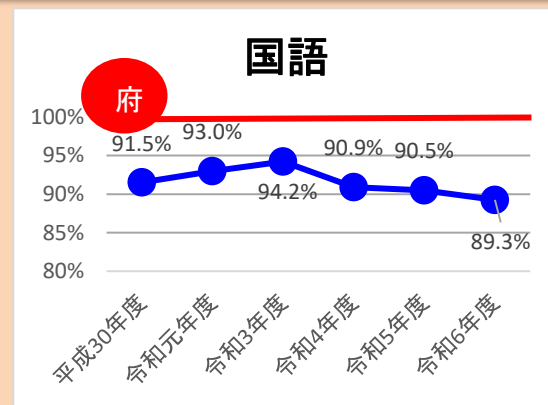
○学習指導要領の定着を見とる指標として、府平均正答率7割以上の問題に対して、本市においても同じく7割以上をめざして取り組んでおりますが、国語・社会・数学・理科・英語の5教科ともに達成できていない結果となりました。しかしながら異集団にて英語、同一集団にて理科に一定改善が見られます。また、アンケート結果を見ますと、「授業中、思考ツールを使うなどして、自分の考えを整理したりまとめたりする場面がある」「授業中、PC・タブレットを使い、授業中意見交換する」等のICTも活用した授業改善は一定向上傾向にあるものの、「家で自分の苦手なところ、必要としているところを考えて学習する」等の学びへの意欲や自己調整力、また普段の読書量の少なさや学習以外のスマートフォンやタブレットの活用率の高さ等に課題が見られます。

## 【今後の取組について】

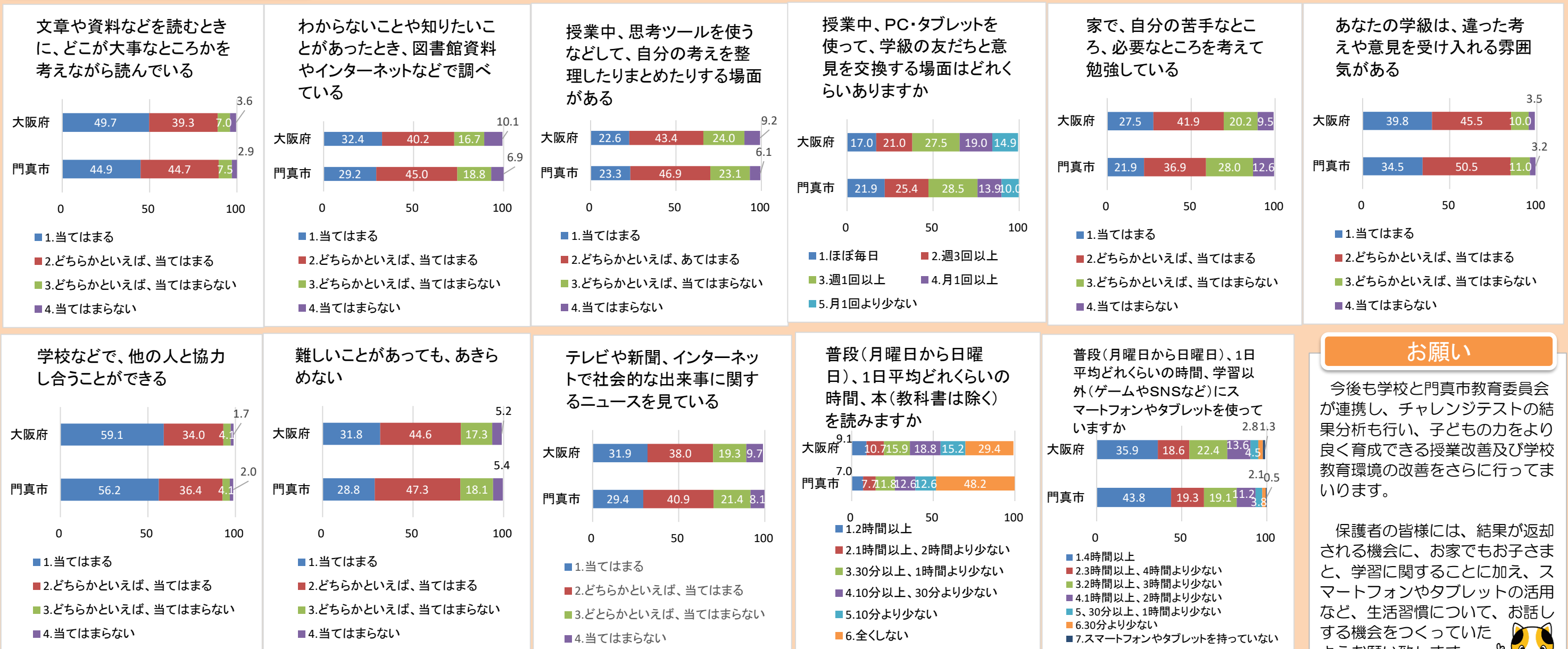
○門真市教育委員会では、子どもたちの将来の自立に向けて、学習指導要領の着実な定着をめざしております。今後も子どもたちの「主体的に学ぶ力」「課題を発見・解決する力」を育むため、一律で平準化した一斉授業スタイルだけでなく、子どもたち一人一人の個性に目を向けた「子ども主体」の授業への転換を図りながら、「令和の日本型学校教育」の実現をめざし、子どもたちの確かな学力の育成に向けて取り組みを進めてまいります。  
○引き続き、門真市教育委員会指導主事等が学校訪問を行うなど、学校と教育委員会が一体となり、子どもたちの学力向上の取組を推進してまいります。保護者の皆様におかれましても、ご協力とご支援を引き続きよろしくお願い致します。

※今回お知らせする調査結果につきましては、学力や学習の一部であり、子どもたちの学力や学習状況、学校の教育活動等の全てを表すものではありません。

平均点における対府比較の経年変化(教科別)



生徒アンケート(対府比較)



お願い

今後も学校と門真市教育委員会が連携し、チャレンジテストの結果分析も行い、子どもの力をより良く育成できる授業改善及び学校教育環境の改善をさらに行ってまいります。

保護者の皆様には、結果が返却される機会に、お家でもお子さんと、学習に関することに加え、スマートフォンやタブレットの活用など、生活習慣について、お話しする機会をつくっていただようお願い致します。



※ 無回答があるため、全ての数値を足しても、100%にはなりません。